

受電点のPAS（負荷開閉器）は、周辺に波及する停電事故（波及事故）を防止するために設置され、現在、竣工時においては、ほぼ全ての事業場で設置されています。

一方、設置後10年以上が経過すると内部経年劣化が進み、事故率が多くなります。

「日本電機工業会、電気設備更新推奨時期10年」

波及事故が発生しますと機器の損壊など自社の損害だけでなく、近隣における信号機や医療機関が停電し、人命に関わる社会的に大きな影響を及ぼします。また商業活動にも大きな影響があり、中には多大な損害賠償を請求されるケースもあります。

PAS（図1）は、引込ケーブルやキュービクル内の電気設備の故障による事故電流を検知し、回路を開放することで、周辺地域を長時間停電※1させてしまう事故を防止することができます。

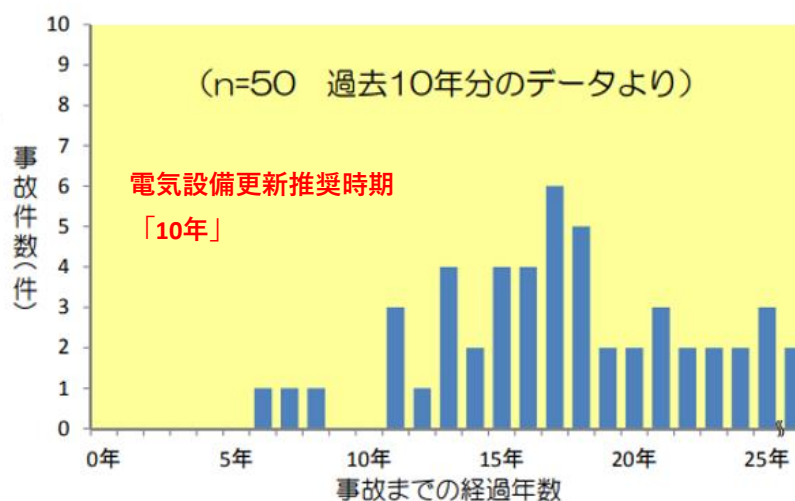
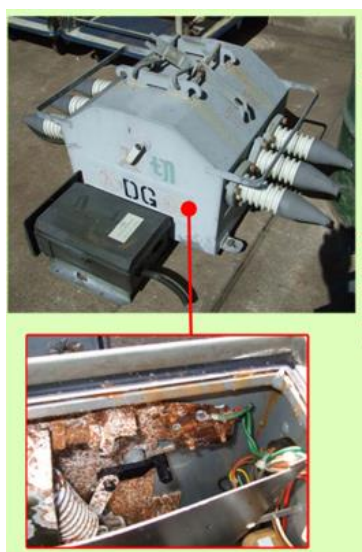
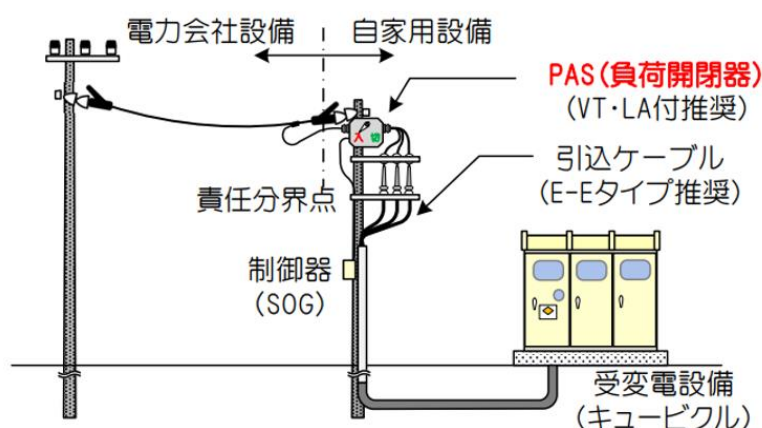


図3 PASにおける事故までの経過年数
（経済産業省関東東北産業保安監督部統計データより）

「電気管理技術者は、常時（24時間）対応しています、電気事故等の発生時は、すぐに連絡をお願い致します。」